

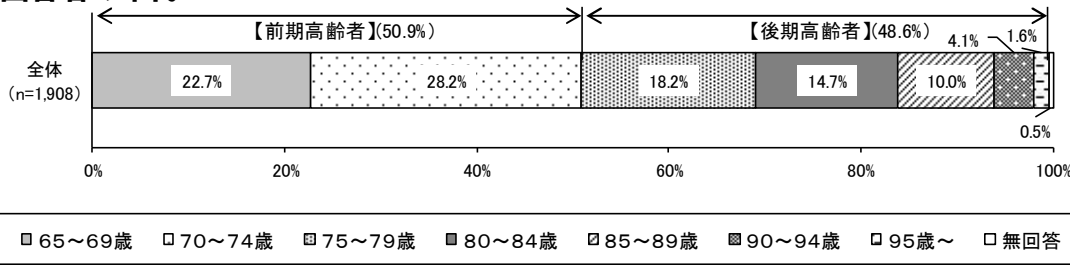
令和4年度 宮崎市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第1号被保険者) 結果概要

○調査期間:令和5年1月10日～1月24日

○調査対象者:介護保険要介護認定を受けていない65歳以上の市民3,000人(回収数1,908、回答率63.6%)

○調査方法:調査票の発送は郵送方式。回収は郵送方式またはWEB方式。

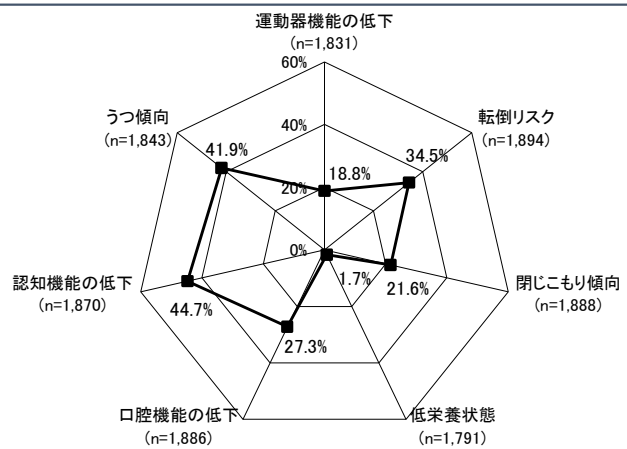
①回答者の年代



②生活機能評価

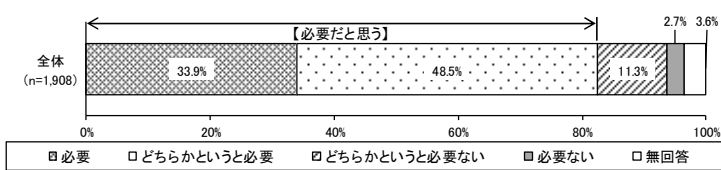
回答結果から、厚生労働省が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、「運動器機能の低下」、「閉じこもり傾向」等の判定を行いました。

順位	該当項目
第1位	認知機能の低下(44.7%)
第2位	うつ傾向(41.9%)
第3位	転倒リスク(34.5%)
第4位	口腔機能の低下(27.3%)
第5位	閉じこもり傾向(21.6%)
第6位	運動器機能の低下(18.8%)
第7位	低栄養状態(1.7%)

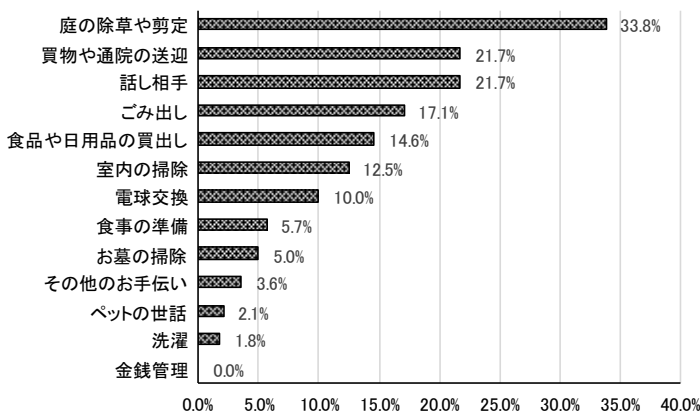


③住民同士の支え合いについて

8割以上の方が、住民同士の見守り、助け合う仕組みの必要性を感じていました。

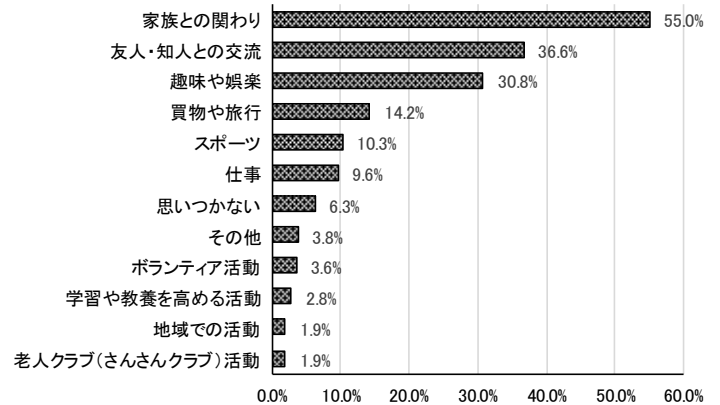


日常生活において、地域の人に何かお手伝いしてもらいたいこととして、「庭の除草や剪定」、「買い物や通院の送迎」、「話し相手」が上位となりました。



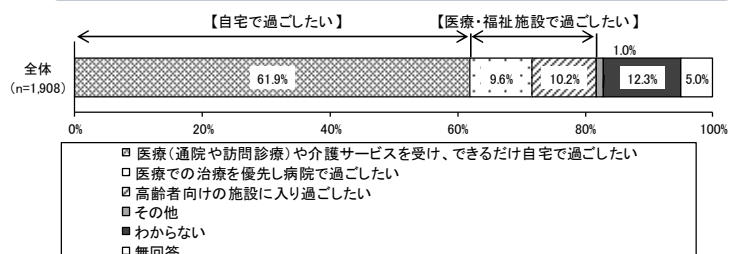
④生きがいについて

「家族との関わり」の割合が最も高く、次いで「友人・知人との交流」、「趣味や娯楽」と続いています。



⑤今後の生活について

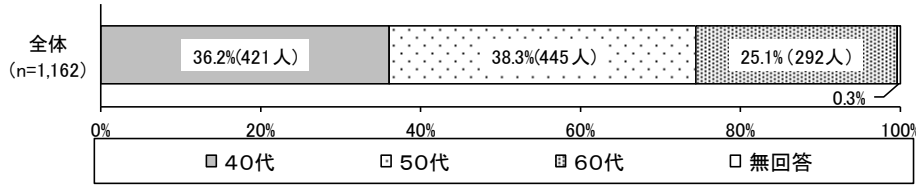
仮に介護または病気療養が必要になった時の過ごし方について、6割以上の方が、医療(通院や訪問診療)や介護サービスを受け、できるだけ自宅で過ごしたいと回答していました。



令和4年度 宮崎市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第2号被保険者) 結果概要

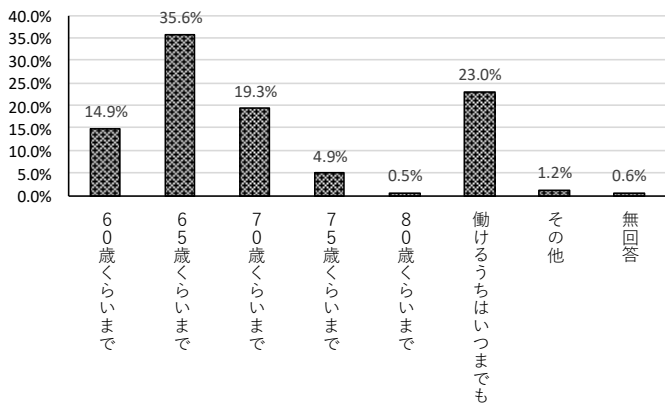
- 調査期間:令和5年1月10日～1月24日
- 調査対象者:40歳～64歳の市民3,000人(回収数1,162、回答率38.7%)
- 調査方法:調査票の発送は郵送方式。回収は郵送方式またはWEB方式。

①回答者の年代

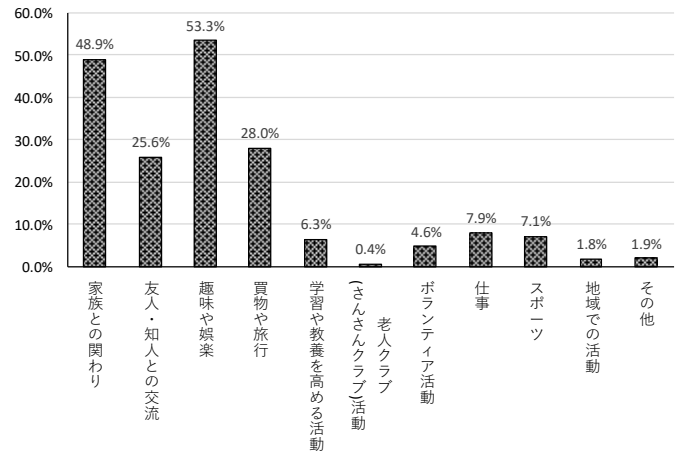


②セカンドライフ(老後)について

現在、仕事をしている人のうち、「65歳くらいまで」働きたい方が35.6%で最も高く、次いで「働けるうちはいつまでも」が23.0%という結果になりました。

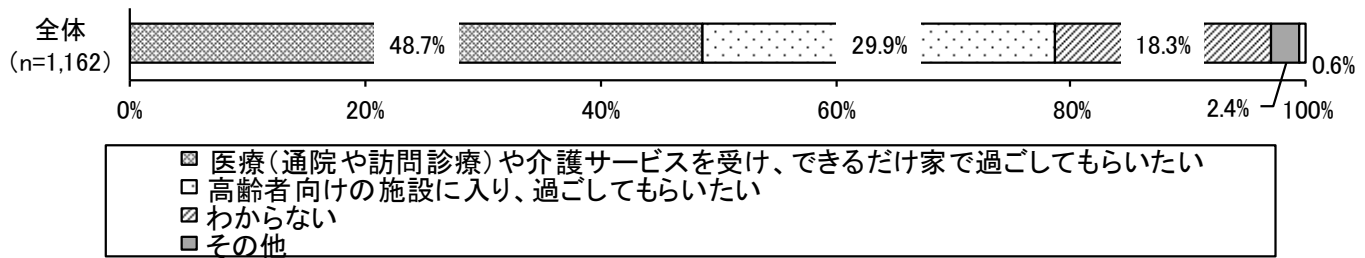


セカンドライフの「生きがい」として考えているものを2つまで選んでもらったところ、「趣味や娯楽」が53.3%で最も高く、次いで「家族との関わり」が48.9%という結果になりました。



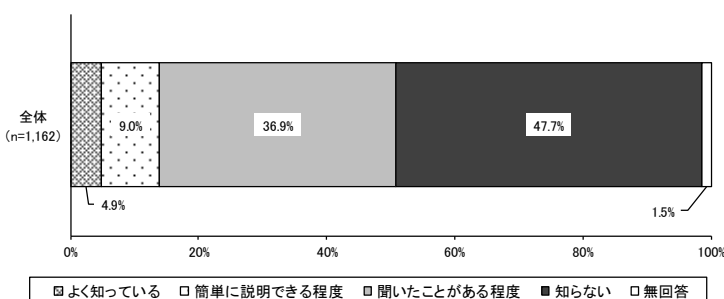
③介護に関する考え方について

回答者の家族が介護を必要とし、回答者が主介護者になった時に、その家族にどのような生活を送ってほしいか伺ったところ、「医療や介護サービスを受け、できるだけ家で過ごしてもらいたい」が約半数を占めました。



④地域包括ケアシステムについて

2025年問題、2040年問題について、47.7%の方が「知らない」と回答しています。



回答者が高齢期(65歳～)の生活を考えた時に、不安に感じるものとして、「自分の健康や病気」の割合が最も高く、次いで「生活費」、「自分の介護」などが続いています。

